

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	島根県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	益田市立吉田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	2	20	33
児童数	111	90	105	87	86	114	5	598	

研究の概要

1. 研究主題

<p>確かな学力をつける指導のあり方 ～算数科の学習を通して～</p>

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>1～6年生 算数 ねらいや実態に応じ、様々な指導形態がとりやすく、その成果が明らかになりやすい教科であるため。 ・数量や図形についての意味がわかる楽しさ ・体験活動や作業で学習する楽しさ ・知識・技能が身に付き、「できる」と感じる楽しさ ・課題に対して自分の考えがもてたときの充実感 ・学び合いの活動の中で、考えを深め合う楽しさを味わうことのできる教科であるため。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 確かな学力をつける指導のあり方 仮説 わかる＝楽しいのサイクルを繰り返すことにより、学習に対して意欲的になり自信がついてくるであろう。そのためには教師自身の意欲と資質を高めていくことが必要である。 研究の内容・方法 ・計算力の向上に重点を置く。＜独自の計算力テスト実施＞ ・少人数指導＜算数科＞の全校体制づくり ・教員研修推進の工夫</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力をつける指導のあり方 仮説 考えを書くの継続的取り組みにより、自分の考えを持つことができる力が育つであろう。 研究の内容・方法 ・算数科における「育てたい子どもの力」の見直し・検討 ・全校体制の組織作り ・少人数指導やT・Tの指導形態の効果的活用 ・算数的表現力を高めるための手だての工夫 ・ねらいや、予想される子どもの姿とその支援を明確にした授業展開の工夫 ・学習の状況を見取り、支援するための評価内容・方法の工夫 * 研究内容の変更の理由... 14年度に4年生を対象に行った学力テストの結果、知識・理解や技能・表現に対し、思考・判断力が落ち込んでいること</p>
--------	--

がわかった。育てたい子どもの力を再検討した結果、今年度は計算力に加え「考える力」を育てるための授業改善に重点的に取り組むことになった。

平成
16
年度

テーマ
自分の考えを持ち、学び合うことのできる子どもの育成

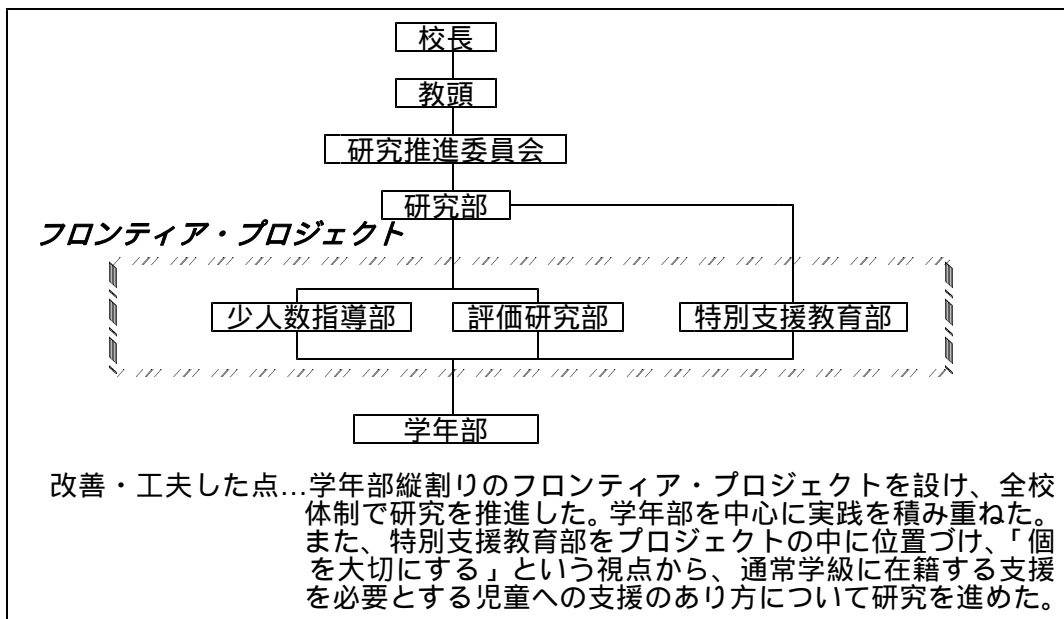
仮説

各単元・単位時間のねらいを明確にしてより効果的な指導形態を工夫すれば、個を生かす指導や集団での学びを生かす指導ができ、一人一人の学力を高めることができるであろう。
子どもの予想される姿とその支援を明確にした授業を展開すれば、自分の考えを持つことのできる子どもを育てることができるであろう。
学び合いの場における発問や展開を工夫すれば、学びをより深め広げることができるであろう。

研究の内容・方法

- ・少人数指導やT・Tの指導形態の効果的活用
- ・算数的表現力を高めるための手だての工夫
- ・ねらいや、予想される子どもの姿とその支援を明確にした授業展開の工夫
- ・指導と評価の一体化<座席表の効果的活用、自己評価カードの分析>
- ・学び合いの場の設定、考えを深め、まとめていくための発問の工夫
- ・子どもの意識の変容を見取るためのアンケートの実施

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

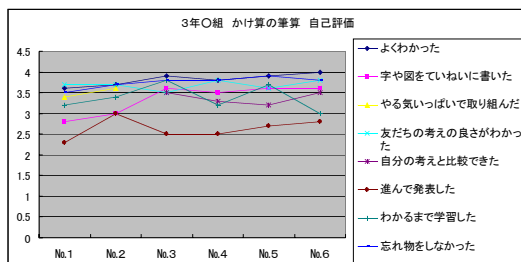
全学年・全学級で算数科における少人数指導やT・Tを行うことができた。基礎計算力が定着した。<計算力だめし(全学年実施)によるデータ>

学年平均点	2年生	97.3点
	4年生	94.1点
	5年生	92.1点

算数の学習に対する意欲が高まった

- ・学習感想の記述から
- ・各学期ごとの子どものめあてや作文の中から
- ・自己評価カードの継続により

* 例 自己評価カードを数値化・グラフ化したもの(3年 かけ算の筆算)

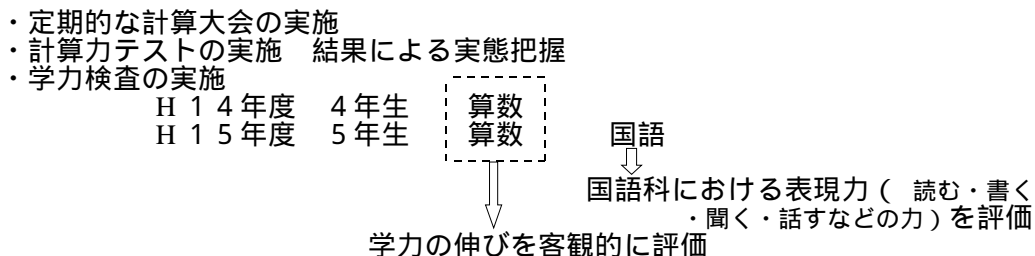


考えを表現するための表現方法や伝えるための表現方法の習得について実践を積み重ねることで、子どもの多様な考えを引き出すことができるようになってきた。
 子どもを支援するための評価のあり方、授業改善のための評価のあり方について方向性を打ち出すことができた。
 少人数指導担当者を中心に、学年部で実践を進めていこうとする意欲が高まってきた。
 少人数指導に対する保護者の理解が進んできた。
 コース分けの時には、保護者の協力もあった。

2. 今後の課題

- ・ Plan・Do・See の流れで動きやすい研究体制の見直し
- ・ 子どもの意識の変容を見取るための調査の内容・方法の検討
- ・ 「考える力」の伸びを客観的に判断する方法の検討
- ・ 習熟度別学習の導入推進、保護者説明等の課題の解決

学力等把握のための学校としての取組



フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 「学力向上フロンティア」の取り組みを普及する会
- 日時 平成15年8月25日
 場所 吉田小学校
 対象 市内小学校教員(希望者)
 目的 本校の取り組みの内容や成果、課題等についての普及と、各校の実情に合わせた情報・意見交換の場
- * フロンティアスクール地区協議会授業公開(併 益美教研算数部会 授業公開)
- 日時 平成16年1月23日
 場所 吉田小学校
 対象 地区協議会に参加している小・中学校教員
 益田市・美濃郡の小・中学校教員
 目的 研究授業を通して、取り組みの内容や成果を普及する
- * HPについては、本校のHPが未作成であり、取り組んでいない。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無